

九月の甲斐の旅  
～甲斐を歩いて見つけたもの～

●滝坂の往生塚

中央本線の竜王駅から北へ1.6Kmほどの所に「滝坂の往生塚」がある。塚は、甲斐市龍地17番地、中央自動車道の双葉サービスエリアの北側に位置し、海拔315mの山裾の先端にある、ホテル神の湯温泉の敷地の一角にある。

赤坂台古墳群と言われる古墳のひとつである。墳丘部は直径15m、高さ2.8mの円墳で、築造時期は7世紀前後と言われている。

この場所は、釜無川の北岸で、荒川の支流である貢川との間に挟まれた丘陵地帯になっている。茅ヶ岳(1704m)・金ヶ岳(1764m)・曲岳(1642m)・黒富士(1633m)などの奥秩父の前衛の山塊から長く尾を引く裾野の末端にあたり、甲府盆地から緩やかに上った海拔300mを越えるかけ上がりの場所になっている。

北側の斜面に滝坂という地名が残っているが、いくつかの坂道が滝のように走っていることが由来とされている。

甲斐市教育委員会の資料によると、赤坂台古墳群には30基以上の古墳があったが、宅地開発・高速道路工事その他による開発で殆どの物が消えてしまい、現在残っているのは7基だけとのこと。

貴重な7基のひとつが往生塚古墳で、南に向いて建ち、奥行8m、高さ2.3mの横穴式石室が確認されている。また、副葬品などの遺物は出土していなく、誰の墓であったかはわからない。



円墳が築造された時期には墳墓に名が付いている訳ではないので、後の世で「往生塚」という名が付いたのには何か由来が潜んでいると考えられるが、その情報は見当たらなかった。「往生」ということは仏教から来ている言葉なので、何か伝説・伝承があると睨んでいる。

往生塚がある甲斐市龍地という地名は、昔の龍地村・竜王村という地名から繋がっているもので、おそらく雨量が少なく水不足に悩まされた土地の竜神信仰が関係していると考えられる。信州方面への交通の要衝を守り治山治水にも目を向けた武田信玄は、釜無川の治水工事として堤をいくつか築造したほか、茅ヶ岳・金ヶ岳・曲岳から長いスロープを引く裾野に溜池を造り、水路を切って排水する工事も手がけた。

## ●甲斐市の成立ち

甲斐市は平成16年(2004年)に、竜王町・双葉町・敷島町の三町の合併によって誕生した。さらにその前の段階を遡ると、三つの町の足取りはこうだった。

竜王町 明治8年竜王村・竜王新町・富竹新田・篠原村・万歳(まんざい)村が合併して誕生

明治22年町村制施行により竜王村が起立

昭和31年竜王村・玉幡村が合併して竜王町が発足

双葉町 明治8年 竜地村・大袋(おおぬた)村・団子新居村・菅蒲沢村が合併して登美村が起立

昭和30年登美村・塩崎村が合併して双葉町が誕生

敷島町 昭和2年松島村・福岡村が合併して敷島村が誕生、昭和21年町村制施行により敷島町に

昭和29年睦沢村・清川村・吉沢村を統合

## ●竜王という地名の由来

竜王駅から西北西へ1Km弱のところに慈照寺という寺がある。

曹洞宗有富山慈照寺開祖の真翁宗見は釜無川の悪龍を濟度し、その返礼として本堂前に湧水を噴出させ、「竜王水」と名付けた。これが竜王という地名の起源と言われている。

慈照寺の創建時期は不明とされているが、前身は真言宗法城寺だった。延徳元年(1489年)に真翁宗見の入山により曹洞宗に改宗したと伝えられている。

## ●山梨県の不思議な地名

山梨県の県庁所在地である甲府市の地名の由来は、「甲斐の國」の「国府」が起源とされている。

また、「甲斐」の起源は「峡(かい)」と言われており、県下の地域の呼称として「峡北」「峡西」「峡東」「峡南」という言い方もされ、甲府周辺は「国中」と言われてきた。

甲斐国は、廃藩置県により「山梨県」と名を変えた。甲斐国の一部であった「山梨郡」が県名として採用されたのは、「明治の御代・幕藩体制からの脱却・新しい時代」などを理由とした政治的な意図もあったようだが、甲斐国の一部の郡の名前が県名(國の名)に採用される事への違和感があり、なかなか定着しなかったという逸話があるらしい。

そんな状況の中で、さらにややこしい問題が発生した。

昭和29年(1954年)に、東山梨郡日下部町・加納岩村・山梨村・八幡村・岩手村・後屋敷村・日川村が合併して「山梨市」を起立した。東山梨郡牧丘町と三富村はここに加わらなかったが、2005年に合流した。(2025年現在の山梨市の人口は31,500人)

県名と同じ名前の市でも県庁所在地ではないという、栃木県栃木市と同じような存在になった。

昭和32年(1957年)に中央線の塩山駅と日下部駅の間に新しく「東山梨駅」が開業。

昭和37年(1962年)に、中央線の日下部駅は山梨市駅に改称。

よそから来た人が中央線に乗ると、塩山の次に東山梨・山梨市と似たような駅名が続き、紛らわしい。しかも、平成17年(2005年)に塩山市・勝沼町・大和村が合併して、「甲州市」が誕生した。地域を総称する「甲州」という呼称が、山梨県東部の小さな市の名前として使われることになった。

前述のように、平成16年(2004年)には甲府市の西側に「甲斐市」が誕生し、これまた地域を総称する呼称が使われてしまった。

かなり無秩序に自治体の名前が作られた感じがするのだが、実はこれでは終わっていなかった。

平成18年(2006年)に、中巨摩郡玉穂町・田富町と東八代郡豊富村が合併して「中央市」となった。山梨県の中央に位置するというのが命名にあたっての主張らしい。

甲斐国(甲州)は、山梨県となり、県下には山梨市・甲州市・甲斐市があり、甲府市という県庁所在地より上位のイメージを持つ名前を冠しており、さらに甲府市の西側に中央市があるという、他国の者が見たら「えっ?」と思うような状態になってしまった。どういう議論がされて市の名前が決められたのか? 他県の者がとやかく言うことでもあるまいが……。

以上